資源環境経済学特別演習 II 議事録（１２月）

２０１１ 年 度 第 １ ０ 回

報告題名 営農再開に対する耕作者の意向と支援ニーズの把握	
報告者　小賀坂　行也	日時　１２月８日　午後３時～
（所属分野）　農業経営経済学分野	場所　第二講義室
座長　渋谷俊	議事録担当者　中村彰宏

出席者

長谷部、安江、米澤、米倉、冬木、高篠、伊藤、石井、阿部、韓、大友、小賀坂、スチン、八木、水木、宮里、易思、威廉、王、金、タンボウニ、中村、堀、林、泉井、金、黄、今井、渋谷、畠山、室井、徐、王、伊坂、菅野、佐藤、西田、丸林、門馬

報告要旨

3・11 大震災において、宮城県沿岸部を襲った津波によって、仙台東部地域の農業は壊滅的な被害を受けた。こうした中で、JA 仙台では、仙台市・仙台東土地改良区と仙台東部地区農業災害復興連絡会を設置し、震災復旧・復興の取り組みを行ってきた。

本報告では、復興連絡会において実施した被災農家の意向調査を分析することで、今後の営農再開の意向と支援ニーズを把握する。

分析手法として、重回帰分析とテキストマイニング法を用いる。重回帰分析により営農意向を継続させる要因が何であるかを明らかにし、またテキストマイニングにより自由意見の中で多く使われている言葉が何であるかを分析し支援ニーズを把握する。

結論として、農地の近くに住まいがあることが営農意向を強くすることが分かり、また、一律の支援ではなく、地区や営農意向別にきめ細かな支援ニーズが必要とされていることが明らかになった。

質疑・応答

渋谷：結論において、地区や農家毎にきめ細やかな対応をしていく必要があるとしているが、今後はその細やかな対応について調査していくという意向なのか。

小賀坂：今後細かい支援策について調査をするかは未定である。

丸林：被災者に対するヒアリング調査の結果に関して、畑作の継続方法の項目で無回答が３割となっているが、特に答えにくい質問ではないと思われるのになぜこのような高い値になっているのか。

小賀坂：おそらく、震災でまだ混乱しているなどの事情で、決めかねている人が多いのだと思われる。

丸林：震災以前に、この調査対象の三地区で畑作の集落営農は行われていたのか。

小賀坂：畑作は個人でやっている人しかおらず、集落営農では行われていなかった。ただし、今回の震災を契機として、畑作の集落営農を行う組織が１つではあるが立ち上がっている。今後は補助事業を受ける要件を満たすために組織化することも考えられる。

冬木：震災という非常事態の場合、一月の間に被災農家の意向が変わってしまうこともありえる。ヒアリング調査には三ヶ月かかっているため、回答日などについても考慮する必要があるのではないかと思う。住居に関しての質問があるが、住居にどれだけの被害があったのかというような点についての属性分けをする必要があるのではないか。また、先ほどの質問に関連して、畑作については自給的にやっている人も多いため、無回答が多いのではないかと思う。

小賀坂：回答日に関しては、詳しい日にちまではわからないが３、４回に分けて行われた調査の内、何回目に取られたデータなのかは分かるため、月は特定できる。

高篠：圃場整備の意向に関しては、ダミー変数を入れているのか。

小賀坂：圃場整備を希望する人を３、原形復旧と回答した人を２としてその数字で分析している。

高篠：３、２、１、０という数字に序列があるのならそれで良いと思うが、それぞれに関してダミー変数を使った方が良いのではないか。

小賀坂：それぞれの回答について、営農意向が高い順ということで順番を付けている。当時は地権者負担ゼロということが決まっていなかったこともあり、圃場整備や原形復旧を希望する人は営農意向が強く、農地以外を希望する人や無回答の人は営農意向が弱いと判断した。

高篠：住まいの意向について、個別移転と集団移転に違いはあるのか。

小賀坂：農業を続けていくためには集落が必要になるという意見もあり、集団移転を希望する人は営農意向が強いと言えると思う。それに対して、個別移転を希望する人には、もう農業を続けるつもりはない、できるだけ遠くに行きたいという人が多かったため、営農意向が弱いと言える。

高篠：面積のデータも持っていると思うが、それを加えても良いのではないか。

小賀坂：面積のデータも入れてみたが、被災面積の割合のデータと似た傾向になったため外している。

長谷部：面談形式のヒアリングで無回答というのはなかなか無いことだと思うが、どう考えているのか。

小賀坂：無回答の人は前向きに農業に対して考えていないと判断し、０とした。

高篠：無回答の人を除いて分析して、同じような結果が得られるかを試してみると良いのではないか。

小賀坂：考えてみます。

冬木：７月末では補助事業等の情報が揃っていないため、今やると違う結果が出るのではないか。

小賀坂：現在、国が地権者負担ゼロの圃場整備に関してのアンケートをとっているので、結果を比較してみたい。

安江：地区別のテキストデータマイニングにおいて、高砂では排水という言葉が上位に出ているのに、他の地域では出ていないのか。

小賀坂：おそらく他の地域でも排水という言葉は出ていると思うが、割合が少ないのでここでは除外していると思われる。高砂地区では他の地域よりもパイプラインが整っており、比較的最近に圃場整備が行われたことなどが影響していると考えられる。
安江：そういった現場の状況と照らし合わせて分析することでもう一段階深い考察ができると思う。
米倉：マイニングとはどういう意味か。
小賀坂：英語の「掘る」という単語」。
米倉：テキストデータマイニングでは、ネガティブな動詞などは排除しているのか。
小賀坂：動詞は見ずに、名詞、形容詞を抽出している。
米倉：それならば、その名詞や形容詞がどのような意味合いで使われているのかまでは判断できないと思うが、元々のテキストを見て判断しているのか。
小賀坂：テキストから判断している。